

平成２８年度地域振興会議 第１回南ブロック合同会議 議事概要

【開催日時】

平成２８年７月２０日（水）午後１時３０分～午後３時２０分

【開催場所】

用瀬地区保健センター 大集会室

【参加者】

（用瀬地域）

出席委員 谷村萬吉、西川功美、平井育子、谷口芳幸、大家繁博、谷本由美子、西村繁榮、山下ゆかり、亀谷幸子、福山裕正 以上１０名（敬称略）

事務局 田中支所長、沖田副支所長、坂本産業建設課長、金谷地域振興課主幹

（佐治地域）

出席委員 上田喜清、福安 修、栗谷幹雄、岡村裕司、谷上雄亮、井上洋美、谷口由紀子、金田洋子、杉本淑子 以上９名（敬称略）

事務局 小谷支所長、竹本副支所長、川西産業建設課長、徳永市民福祉課長、西尾地域振興課課長補佐

（河原地域）

出席委員 竹田賢一、小谷加代子、竹内和義、楮原典子、倉信 敬、竹内文彦、坂本悦子、河毛 寛、安木 均、渡邊初子、奥谷仁美、安養寺幸男 以上１２名（敬称略）

事務局 窪田支所長、西尾副支所長、前田地域振興課課長補佐

【次第】

１．開会

２．議長選出

（事務局）議長選出については、前回のブロック会議において、議長は開催地の会長がその任に当たることと決定していただいていることから、今回の開催地である用瀬地域の谷村会長に議長をお願いすることとしてよろしいでしょうか。

（異議なしの声）

（事務局）それでは、谷村議長さん、ごあいさつをお願いします。

３．議長挨拶

（議長あいさつ）

4. 報告

(1) 各地域振興会議の取組み状況

(用瀬地域会長)

地域内3保育園について、統合して新たに設置することで進めております。

用瀬町は高齢化率が33%となっており、増える空き家の活用について、支所や地域の団体による取り組みを行っており、外部から50件程度の問い合わせがあり、現地説明を行ったりしている。

防災無線のデジタル化に伴い、行政放送機能を維持するよう要望をしており、市から検討するとの回答を得ているところである。

公共交通については用瀬地域だけではなく佐治地域についても利用者からは好評であるが、さらなる利用促進への取り組みを進めていかなければならないと考えている。

支所の整備（耐震化）については、現在出ている案について慎重な審議を行っております。

また、用瀬地域でのエコツーリズムの推進について、これまで用瀬町内の各地区で行われている地域資源を活用した取り組みを町内で連携を進めているところです。

(河原地域会長)

保育所の統合について、河原においても話があるが、各地元から残してほしいとの声が多い。そのあたりは話がついているのか。

(用瀬地域会長)

統合については、保護者から園児が少なくなっていく状況が、これからの園児の保育上よくないのではないかという意見が出てきて、保護者会として3園統合の方向性を出していただいたことから始まった。そのおかげか、地域からの大きな反対などはあまりなかったと理解している。

(佐治地域会長)

合併したとき2,800人いた人口が、現在は2,050人と27.6%減少した。しかも高齢化率が44%に達しており、今後もこの傾向が続くのではと懸念している。このことで、山林や農地の荒廃が進み、下流域での水害被害の拡大を招くのではと危惧している。いかに地域に住み着く人を増やしていくためには、小さな拠点づくり、公共交通システムの構築と運営、新しい地域運営の構築が大事であると考えている。

佐治地域では、5しの里ということで地域資源を活用した取り組みをしており、その中の一つとして、昨年からどぶろくの製造許可をいただき、第3セクターで取り組みを進めている。材料に地元の米を使うなど地域の活性化につなげていきたい。

(河原地域会長)

(委員の交替（竹内委員）について報告)

工業団地の整備が進んでいる。山手工業団地のイナテックについて先日見学してきた。現在、追加で社員募集をしている。布袋工業団地では、ササヤマ、マルサンアイなどの整備が進んでおり、これから若い方が入ってくるのではと考えている。

可燃物処理場については、5月に国英地区可燃物処理施設検討対策協議会が設置され、生活環境等の保全に関する協定の年内締結に向けての協議が始まっており、平成31年度の完成に向けて取り組みが進められている。

支所の庁舎整備については、現庁舎を取り壊して、第二庁舎への移転が決まっている。地

元としては早く取り組んでほしいと思っている。

河原には5地区あり、それぞれの地区で地域活性化の取り組みが進められているが、特に人口対策は国・県を挙げて取組んでほしい。

防災無線の行政放送の機能については、私たちからも残してほしいと意見を申している。

(2) 鳥取市新本庁舎建設基本設計概要(案)について

庁舎整備局(資料1により説明)

(河原地域会長)

駐車場は200台分を整備とあるがどのように必要台数を算定したのか。少なく感じるが。

(庁舎整備局)

H23に基礎調査として来庁者数の調査を行っています。本庁、第二庁舎、駅南庁舎の調査結果を基に、1日当たりの来庁者数を1770人と想定しています。また来庁者数のピークが午前10時ごろと見込み、時期的な変動や、来庁者の6割が車で来庁する点、1台当たりの人数などを考慮して、駐車場の必要台数を200台と想定しています。その他に公用車用は立体駐車場で100台整備する予定であり、全体で300台分の駐車場の整備を計画しています。

(河原地域会長)

全体で300台の駐車が可能となるということか。

(庁舎整備局)

公用車駐車場と一般の駐車場は入口が異なるため、一般の駐車場として利用可能な公用車駐車場の2層部分の50台を合わせ、いざというときは最大250台程度が利用できるよう計画しています。

(河原地域会長)

立体にするとか地下を掘るなど、もっと多く駐車できる方法を考えてもいいのではないかと。電気自動車も増えてくるが、充電設備はどの程度を考えているのか。

(庁舎整備局)

急速充電器は、来庁者用駐車場に1台、公用車駐車場への設置も検討しています。

(河原地域会長)

とても少ないと思う。河原道の駅にも1カ所あるが、ほとんど埋まっている。これからの時代を考えてもっと増やしたほうがいいと思う。

(庁舎整備局)

急速充電器については様子を見ながら増設等について考えていきたいと思います。

駐車場については敷地が限られているので、まずは一般利用者の利便性を第一として、200台を確保し、また公用車駐車場の利用も可能となるように計画しているところです。地下式については検討してみたが、コストがかなりかかることと災害時に浸水の恐れがあるため、現在は平面で最大限の整備を計画しています。

(河原地域委員)

庁舎の整備については、整備費用や市民の様々な思いの中で二転三転した経過があり、まだ市民の皆さん全てから賛同をいただいているわけではない点を配慮してほしい。特に整備費については過剰にならないようしっかり抑えていただきたい。また、整備の際にはなるべく地域の業者を利用してほしい。

(庁舎整備局)

費用については、基本設計段階では、これまで公表している予算規模の範囲内に収まるよう努力しています。ただ、これから東京オリンピックや熊本の災害復旧による建設需要の高まりにより単価が上昇する可能性があるなど、不確定要素による費用の増加の可能性はあることは、お含みいただきたいと思います。

整備に係る業者については、技術力等の問題もあり専門家との協議も必要ですが、なるべく地元の業者に発注したいと思っています。

(佐治地域委員)

設計案にある“にわ”の名前に意味はあるのか。また、設計案の中で横文字が多すぎる気がするので分かりやすい言葉に置き換えてほしい。

(庁舎整備局)

“にわ”については、設計業者から多くの方が気軽に立ち寄れるような場所という意味合いで、“にわ”という表現で提案されているものであります。

横文字で分かりにくいことについては、今後の資料で工夫していきたいと思っています。

(河原地域委員)

駐車場は一方通行で出入口がそれぞれ1カ所ずつしかなく少なく思う。併せて、駐車場に屋根があると、利用しやすい施設になると思う。駐輪場についても同じ出入口であればどこが開いているかなど分かりにくいと思う。

また、災害時一番困るのは水やトイレだと思うが、どのように対応を考えているのか。

(庁舎整備局)

出入口は多いほうが良いと思うが、北側の道路は住宅地が隣接しているとともに、通学路となっていることから、多くの車が通行するのは避けたほうがよいと考えられるため、一般車両の出入口は、南側の道路を使うことを計画しています。安全な利用が出来るようサイン等の表示を配慮していきます。

駐車場については、災害対策拠点として防災ヘリなどが降りられるようにできるだけ平面での整備を考えている。ハートフル駐車場6台には屋根を付けるように考えているが、福祉団体等から妊婦さんや子育て中の方などへの配慮からもう少し増やしてもよいのではとのご意見もいただいていますので、引き続き検討させていただきます。

北側の駐輪場からの動線は、北東側に出入口の設置を計画しています。スロープ状にして車いすの方も利用できるように計画しております。

水については、庁舎では上水と雨水、工業用水の利用を考えており、トイレの流し水は雨水及び工業用水を利用するように考えています。災害時用に上水は3日分、工業用水は7日分のタンクの整備を予定しており、また、上水が不足する場合のために簡易ろ過装置を設けて工業用水等をろ過して飲料水に使うことが出来るように計画しております。また、駐車場でのマンホールトイレの利用も考えています。これからも、こういったものが必要な防災担当部局と相談しながら進めていきます。

(3) 山手工業団地、布袋工業団地の整備状況等について

企業立地支援課（資料2により説明）

（河原地域会長）

地元での採用をお願いしているが、なかなか集まらないと聞いている。こういった人材を求めているのか。地元雇用を進めてほしい。また、空き家が多くあるので、企業で働く方の居住用として活用する方法を考えてほしい。

（企業立地支援課）

地元雇用については企業にお願いしています。7月11日現在求人情報は、年齢制限についてはイナテックは18歳以上、ササヤマは59歳以下ということです。また、高校生、専門学校生、大学生への求人については企業にも帯同していただいているので、今後とも取り組みを続けていきます。

空き家については情報をおよせいただき、空き家活用の関係各所と連携して企業側に提案できないか検討していきます。

（用瀬地域会長）

工業団地への誘致はどのような状況か。

（企業立地支援課）

分譲状況は山手工業団地で32%、布袋工業団地で28.6%です。誘致に関しては、市の魅力として災害リスクの低さや雇用の確保を挙げているが、なかなか難しい状況であり、引き続き取り組みを行ってまいります。

（河原地域委員）

商工会の会長の立場として、求人倍率が上がることは喜ばしいが、その中で既存の地元企業が人手不足とならないか心配している。そうした地元企業のことも考えてバランスを取って進めてほしい。また、誘致して工場を建てるまでではなく、その後の企業活動についてもしっかり見てほしい。

(4) 用瀬町の事例紹介

エコツーリズムの推進について

用瀬町エコツーリズム連絡会 会長（資料3により説明）

5. その他

（事務局）

「山陰新幹線の早期実現と北陸新幹線京都府北部ルートの実現を求める決起大会」について説明

6. 閉会